

---

# SAKURAの木の下で

曖昧 3 センチ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

SAKURAの木の下で

### 【著者名】

N4431D

### 【作者略】

曖昧3センチ

### 【あらすじ】

偶然？奇跡的に出会った男女の物語。

## プロローグ（前書き）

自己満。

妄想。

フィクションです。

## プロローグ

『「ウウウウウー』

校舎の裏にある桜の木の下で少年と少女が出会った…

4月

出会いの季節…

新しい生活が始まり、希望の芽が人間の心に芽生える季節…

全長100メートルはある校舎へと続く長い桜道の中を走る生徒が一人いた。

『リゴーン』

チャイムが校舎を中心に中から外へと順に響く。もちろんこの桜道も学園の敷地内なので桜道を走る生徒にも聞こえた。『クソーッ！  
！入学式の当日ぐらいは遅刻しないこと寝ないで朝を迎えるよ  
としてたのに…』

つと愚痴をこぼしても時間が止まるわけでもないので足を止めず  
に走り続けた。

この恥ずかしい事を心の中でつぶやいてるのが『中曾根高校』に  
今日から通う『三崎智憲』である。

成績普通。

運動普通。

生活普通。

顔も普通。

彼こそがミスター普通マンだ。

かれこれ言つてゐる間にやつと校舎の前のグラウンドに着いた。体

育館の方から声が聞こえてきた。

『新入生起立！』

もう既に入学式が始まってしまつたらしい。

『途中から入るのは恥ずかしいな…』

確かにそうであつた。あの静まりかえつている場に途中で入るのは、手を挙げて自信満々で答えて間違えるぐらい恥ずかしい。つと言つ

わけで、終わるまで学園の中をブラブラすることにした。

この決断が全てを動かすことになるとは『山崎智憲』は考えていない  
かつた：

## 第1話 夢中（夢の中）へ

入学式が終わるまで校内を『ララララ』とした全てが普通の『山崎智憲』は校舎の裏の桜の木の近くにいた。

そこで…

一つの影を見た…

人影らしきものを…

影が風と共に揺れてい。

多分髪の毛だらけ。

そして、智憲は影が出ている方向を見た。

長い濃い桃色の髪の毛が風でなびいている。

髪の毛のにおいが……

風がにおいを連れてくる……

そして彼女は智憲に気付き智憲の方を見た。彼女はにこりと微笑み  
智憲の視界から消えた……

そして智憲は夢から目を覚ました。

『いつの間にか寝てたのか……』桜の木の下でいつの間にか寝ていた  
智憲は立ち上がった。

『それでも……不思議な夢だったなあ……まつ、いいや……』

『早く教室に行こう。』智憲は土間の前に貼つてあったクラス表を見  
た。

『1年6組かあ……』

クラス表を確認すると、土間を通り、階段を登り自分の教室の前に  
着いた。

『東中出身、御手洗剛です……』

なにやら既に自己紹介が始まっていた。

『ヤベー、完全に遅刻だ。』

勇気を出して引き戸に手をかけた。

『キイー』

ドアを開けた瞬間、クラス全員の冷たい視線が智憲の心に突き刺さつた。

『は、恥ずかしい…』

もちろんそうであった。あの静まりかえった場に途中で入るのは、授業中に皆が集中して静かな時に筆箱を落とすぐらい恥ずかしい。しかし、この先生の言葉のおかげでこの空間を抜け出すことができた。

『お前が山崎智憲か?』

『そつ、そうです。』

『だったら、一番後ろの窓際に座れ。』

そう言われると智憲は自分の席へと歩いていった。この智憲が座っている席は日当たりが抜群にいいので、智憲は睡魔と戦っていた。

そして…

ゆっくり、

アベック

の母へと…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4431d/>

SAKURAの木の下で

2011年1月21日15時09分発行